

英語・中国語教育センター3年間の活動報告書

English Chinese Language Education Center Three Year Activity Report

高瀬 奈美

英語・中国語教育センター

Nami TAKASE

The English and Chinese Language Education Center

マーカス スプリンガー

英語・中国語教育センター

Marcus SPRINGER

The English and Chinese Language Education Center

アントニ マーシャル

英語・中国語教育センター

Anthony MARSHALL

The English and Chinese Language Education Center

羅 沢宇

英語・中国語教育センター

LUO Zeyu

The English and Chinese Language Education Center

横田 秀樹

文化政策学部 国際文化学科

Hideki YOKOTA

Department of International Culture, Faculty of Cultural Policy and Management

ジャック ライアン

文化政策学部 国際文化学科

Jack RYAN

Department of International Culture, Faculty of Cultural Policy and Management

エドワード サリッチ

文化政策学部 国際文化学科

Edward SARICH

Department of International Culture, Faculty of Cultural Policy and Management

本稿は静岡文化芸術大学の英語・中国語教育センター（以下、英中センター）発足から3年間における取組を報告するものである。英中センターの役割、TOEICから見る成果検証、学生へのアンケート調査結果を報告する。TOEICを利用した検証では、英中センターが主催する様々な活動によって、点数にも反映していることがわかった。また、学生による利用調査でも、英中センターが有効に使われ、言語学習において効果があることが明らかになった。

This paper reports on the 3 years of activities since the founding of English Chinese Language Education Center at Shizuoka University of Art and Culture (SUAC). A brief description of activities will be stated and how the activities affected the TOEIC scores. In order to understand how students' perceive the Center, we conducted a survey of the students. The results showed that a majority of the students felt the Center activities were beneficial in language learning.

1. はじめに

英語・中国語教育センターは、学生が卒業後に、国際社会で活躍するために必要な「実践的な語学力」と「幅広い文化的知識と教養」を身につけさせるために、英語および中国語教育の充実、強化を図ることを目的として、平成25年4月に設置された。初年度、英語特任講師2名が配置され、平成26年度からはさらに英語および中国語の特任講師各1名が採用され、英中センターは、英語と中国語教育の拠点として、授業以外にも各種イベントやプログラムを行い、英語・中国語教育の充実を図っている。

2. 英中センターの役割

英中センターは大きく分けて4つの機能を持ち、それらを統合して、英語と中国語の教育を進めている。その1つ目の機能は、充実した語学授業の実施、2つ目は英中センターによる各種イベント・活動の実施、3つ目は海外への留学の支援や国際交流の促進、4つ目は語学を生かした

キャリア支援である。

2.1 語学授業の充実

平成28年度からの新教育課程および語学教育強化策により英語コミュニケーション、中国語コミュニケーションの授業数を増やし必修8単位とし、同時に他の科目との兼ね合いから、2つのコミュニケーション科目を、1、2時間限目に集中させる時間割編成をとった。それによって、フランス語・ドイツ語・イタリア語・韓国語・ポルトガル語・インドネシア語など多様な外国語を、国際文化学科の学生だけでなく全学部生が履修可能なように配置し、さらに外国の多様な文化や芸術についての講義、日本語・日本文化に関する教育と合わせて、双方向的なグローバル教育の充実を図った。また、新カリキュラムでは、Global Studiesという科目グループを設定し、Culture and Society A、Culture and Society B、Global Issuesなどの英語で教える専門科目も配置した。さらに、授業以外の学習時間を確保するために、e-learningやIntensive Readingなどの課題も用意している。その他、それぞれ

の取り組みの成果をモニターし、検証するために外部試験を導入している。英語では、TOEICを入学時に全員に、そしてその12月に英語履修者全員に受験するようにしている。また、中国語は、12月にHSKを中国語履修者全員に受験させている。

このように、英中センターは、SUACの語学教育内容を研究し、絶えず授業の工夫を積み重ねることで、より一層充実した語学教育を目指している。

2.2 英中センターの各種イベント・活動

語学授業の充実を中心としながらも、学生たちが授業以外に、気軽に英語と中国語を使える機会を与えるために、英中センターは様々な工夫をしている。多様なイベントの取組により、毎年延べ約1300人以上の学生が英中センターを活用している。

英中センター活動には、毎週行うウィークリーイベントと月1回行うマンスリーイベント、随時行う特別イベントがある。ウィークリーイベントには、TOEIC学習のサポート、宿題やレポートのサポート、Ted Talksでのゲームやビデオ鑑賞などもあるが、学生の参加が多いものとして以下の活動を紹介する。

<ウィークリーイベント>

・英語ランチ

平成25年から毎週2回欠かさず行ってきたのが月曜日と水曜日の英語ランチという企画である。現在は、大変人気があるため毎日、実施している。昼休みの時間を利用し、ネイティブの教員や学生同士が身近な話題をもとに英会話を練習する時間である。毎回10名程度、多いときには20人以上の学生が参加し、継続的に参加する学生はスピーキング力の向上に役立っている。

・映画鑑賞

映画を通して、外国語学習を行う目的で週に1回、もしくは長期休暇中毎日、英中センターに集合し様々なジャンルの映画鑑賞とそのあとに簡単なディスカッションを行っている。10人から20人の学生が毎回参加している。

・Book Club

クラシックから近代文学まで学生の興味のある原書を選び、輪読したり、ディスカッションしたり、映像を通して作品の理解を深めていく。英中センター内での活動だけでなく、長期休暇の際はオンラインでの活動も行う。

・中国語コーナー

毎週中国語や中国の文化について現地の資料、ビデオ、歌、ゲームを通して、授業とは違う側面から楽しく中国語を勉強する。中国に留学や語学研修控えている学生も多く、積極的に取り組んでいる。

<マンスリーイベント>

・インターナショナルコミュニティフォーラム

毎月浜松に在住の外国籍の方を招待し、キャンパスで自国や文化について講演を行って頂いている。主に英語で行い、中国語に関しては通訳をつけて行うこともある。今までに参加した講師は、アメリカ、イギリス、中国、バングラデシュ、フィリピン、カナダ、スロバキア、ウズベキスタン、トルコ、ルーマニア、ブラジル等である。毎回約30名から70名という多くの学生が参加し、か

つ教員、職員も参加している。講演後、積極的に質疑応答に参加する学生も増えてきた。今後は、地域の発展と活性化に貢献するために、インターナショナルコミュニティフォーラムを学外に公開することを検討している。

<特別イベント>

・英語模擬国連

学生一人が一国の大使を任され、特定の議題について担当国の政策や歴史、外交関係などに照らし合わせて、実際の国連会議と同じように議論、交渉、議決を採択する。参加学生は日本各地からだけでなく、世界中からこのイベントに参加する。英中センターでは、このイベントを通して、国際問題への理解、交渉術の深化を図る手助けをし、入念な事前準備を行っている。

・地域英語活動

学生が地域の幼児、小学生、中学生と一緒に英語や文化に親しむ活動を年に数回行っている。過去には、浜松市立横山小学校での活動、碧風祭での幼児から小学生向けの英語活動、浜松学院中学の学生のカナダでのホームステイにおける事前研修活動を行った。英語を教える活動を通して、新たな言語知識に気づき、理解を深めることができた。

・デザイン・ゲート (Design Englishの作成)

3年前よりトルコ、イズミール大学の学生と本学生同士が交流し、英中センターではSkypeを通してデザインの意見交換などを行っている。夏には、イズミール大学と本学において交互にワークショップを行っている。ワークショップでは、地元の企業と連携するなどして、英語で議論をしながらデザインを深めていく。また、早い段階から事前にワークショップのための準備を行い、デザインの内容とともに英語のスキルもブラッシュアップしている。また、英語学習の手助けとなるとともに、学内における専門科目の中での英語プログラム導入のために、教科書Design Englishを執筆した。

・英語落語、映画上映

カナダ人落語家のKatsura Sunshineと英国人落語家のDiane吉日を呼び、英語落語を開催。英語による落語は新鮮で、学生や教員からはよい異文化交流だったと好評だった。また、映画「ハーフ」を2回上映。内容は、ハーフが今まで、日本でどう生きてきたのか、そしてどう生きていくか、現実的なテーマを扱い、学生がアイデンティティや文化などについて考える良いきっかけとなった。

・TOEIC, IELTS, HSK試験対策

TOEIC受験希望者に対して個別対策講座や週1回の対策講座を開催している。12月の試験直前では、受験スキル向上のために90分の対策講座を5回、昼休みと授業終了後に行っている。また、2015年度よりIELTS対策の講座を開講し、2015年度実績として受講生5名のうち4名が6.0以上の成績を収めた。

・中国語イベント (梅花杯)

「中国語で遊ぼう! 梅花杯」は中国文化交流会と共同主催。中国語によるパフォーマンスコンテストを開催していた。100名程度が参加した。

・中国語スピーチコンテスト

江蘇杯中国語スピーチコンテスト：13名の学生が事前審査を通過し出場し、そのうち文化政策学部1年生が初級部門最高賞を受賞した。

第34回全日本中国語スピーチコンテスト静岡県大会：朗読部門とスピーチ部門に分かれ、静岡文化芸術大学で開催された。

・その他（ディベート、映画鑑賞、異文化交流会）

不定期ではあるが、英語ディベート大会への参加のために指導、助言を行ったり、洋画鑑賞会を開き、ディスカッションを行ったりする。また、留学生や他学部の学生との交流を促し、多文化理解の一環としてポットラックやハロウィーンパーティー、カラオケ大会を開催している。

<センターニュースレター・カレンダーの発行>

英中センター活動の告知、報告はセンターニュースレター、フェイスブックを通して行っている。また、日常のイベントはセンターカレンダーを通して、ホームページや学内掲示にて告知している。

2.3 海外留学の支援や国際交流の促進

英中センターでは、留学前の語学支援（IELTS、TOEIC対策）、留学相談、協定校との連絡、留学後の情報収集などを行っている。留学や海外研修を終えた学生からアンケートをとり（写真1）、資料や情報をまとめ、保管している。センター内でこれから留学や海外研修を考えている学生が、自由に閲覧することができる。

また、学内に在籍している留学生が英中センターでの活動に参加しやすくするために、交流パーティーを行い、学生60名以上が参加した。イベントを通して、多くの学生の英中センター利用を図る。



海外留学・短期語学研修・ボランティア活動・インターンに参加した学生にアンケートをお願いしています。

今後、渡航を検討している学生の参考になりますので、ぜひ協力をお願いします。PC、スマホ等からもアクセスできます。

また、渡航先での詳しい情報を写真等で提供して頂ける方も募集しています。詳しくは、英語・中国語教育センターまで。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfc6gADK9UU8u1TR9pc0Aym6Y_1wrStfsTMg50vGd25WrmNzQ/viewform



アンケートに関する質問や不具合は英中センター高瀬まで。

n-taka@suac.ac.jp

英語・中国語教育センター（北406）

写真1

2.4 キャリア支援

キャリア支援に関しては、英中センター発足より3年間は正式な役割として想定されていなかったが、特に海外企業への就職などの相談には個別に対応してきた。そして4年目にあたる2016年度より、キャリア支援室からの正式な依頼があり、海外企業等への就職を希望する学生に対する支援を、現在、進めているところである。これまで通り、海外企業の就職に関する相談を継続すること、さらに、今後、海外関連企業へ就職が決定した学生からの情報を蓄積していくなどの支援を考えている。

3. TOEICから見る英中センターの成果検証

2013年度より始まった英中センターによる3年間の成果を検証する材料の一つとして、TOEICがある。TOEICは、リーディングとリスニングの2つのセクションで構成されており、英語スキルの受動面のみを測定するテストである。本来、聞くこと話すことを中心とした英中センターの教育効果を検証するには、むしろスピーキングおよびライティングといった産出面を含めて測定すべきであるが、産出面を測定する外部試験は、高価なため、一斉受験には不向きであり、現状ではTOEICを利用している。

本学でのTOEICは、4月入学当初にTOEIC Bridgeを全員が受験する。その後、TOEIC IPを5月、7月、10月と学内で任意受験が可能となっており、12月には、1年生英語履修者全員が受験することになっている。まず、過去10年の国際文化学科における学年別TOEIC IP平均点（人数）の推移を見ていきたい。ただし、国際文化学科以外の学科は、2年生以上の任意受験人数が少なく過去のデータとの比較ができないため、ここでは触れない。

表1の過去10年間のデータから、英中センター発足の2013年度以降、特に3年生と4年生の平均が伸びている。これは下記の表2のTOEIC高得点者（850以上）の人数の増加からも分かる。

さらに、2015年度より新入生の4月入学当初のTOEICがBridgeからIPへと変更になったことで、12月の受験と比較することができるようになり、半年間の教育効果を測ることも可能になった。以下の表3がその結果である。

概ね各学科とも平均点の伸びが見られる。特に文化政策学科では、4月と12月の差が125点を示している。

以上のように、英中センターが発足して以来、その成果は外部テストによっても示されており、特に上位層の伸びは顕著である。しかしながら、学科によってその効果に差があることもデータからは読み取れる。特に芸術文化学科とデザイン学科に関しては、さらに教育効果を上げるには、今後どう対処すればよいか検討すべきである。

表1：国際文化学科TOEIC平均点（人数）の推移（2006年度～2015年度）

国際文化学科	2006 平均 (人数)	2007 平均 (人数)	2008 平均 (人数)	2009 平均 (人数)	2010 平均 (人数)	2011 平均 (人数)	2012 平均 (人数)	2013 平均 (人数)	2014 平均 (人数)	2015 平均 (人数)
1年生	453 (87)	458 (116)	421 (149)	455 (141)	465 (157)	509 (102)	493 (149)	528 (132)	477 (100)	497 (108)
2年生	509 (85)	502 (98)	520 (92)	513 (86)	534 (124)	551 (100)	522 (76)	572 (68)	558 (52)	562 (51)
3年生	527 (145)	539 (142)	518 (182)	566 (113)	535 (100)	586 (157)	596 (87)	600 (69)	682 (51)	573 (50)
4年生	591 (17)	614 (29)	621 (24)	609 (55)	653 (18)	631 (33)	604 (25)	648 (26)	744 (14)	636 (20)

表2：TOEIC受験者の高得点者（全学科）の人数推移（2006年度～2015年度）

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
TOEIC850以上人数	1	1	1	1	0	2	3	6	10	7

※ 同年度に複数回TOEICを受けている学生は、最も高い点数を1回としてカウントし、重複は避けている。

表3：2015年度1年生TOEIC IPの半年後の平均点の伸び

2015年度 1年生4月と12月TOEIC平均スコア比較		
	4月	12月
国際文化学科	455	522
文化政策学科	380	505
芸術文化学科	344	390
デザイン学科	338	361

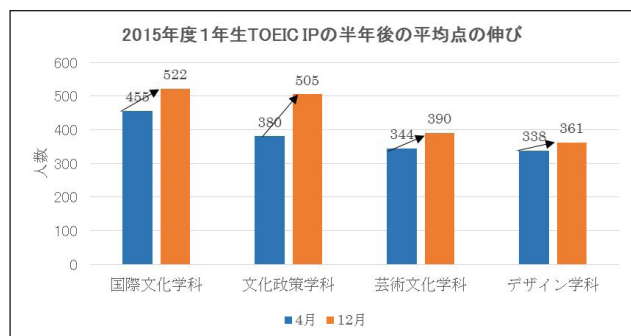


図1：2015年度1年生TOEIC IPの半年後の平均点の伸び

4. 学生へのアンケート調査

学生の英中センター利用に関する実態とニーズを知り、英中センターに必要な改善点を見出すことを目的にアンケートを行った。

4.1 アンケート対象者

文化政策学部とデザイン学部から148名の学生を対象にセンター利用に関するアンケートを実施した。学科による人数の分布（図2）および性別（図3）の通りである。

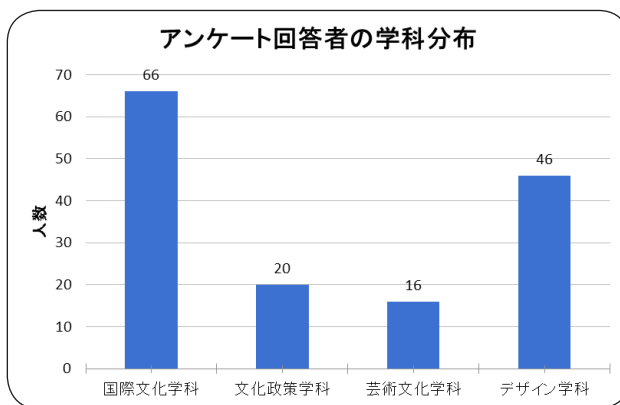


図2：アンケート回答者の人数分布

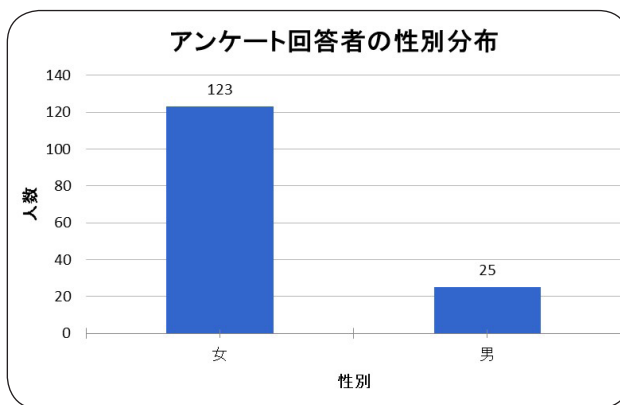


図3：アンケート回答者の性別分布

以上の学生を対象に行ったアンケートの結果を次に報告する。

4.2 英中センター利用状況

アンケートに回答した学生は、英中センターを学期中数回利用することが多く、週1回程度利用する学生も多いことが分かる。

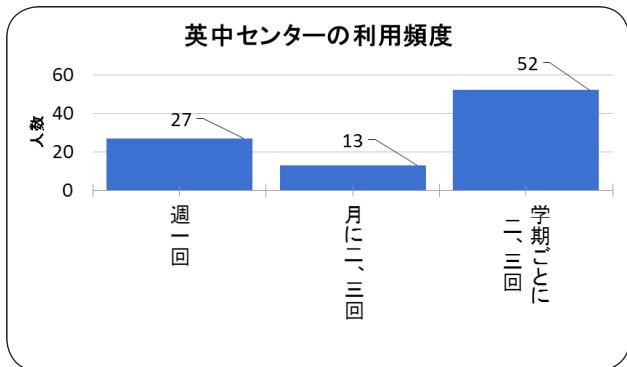


図4：英中センターの利用頻度

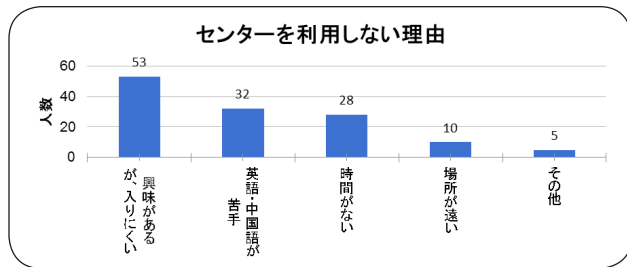


図7：英中センターを利用しない理由

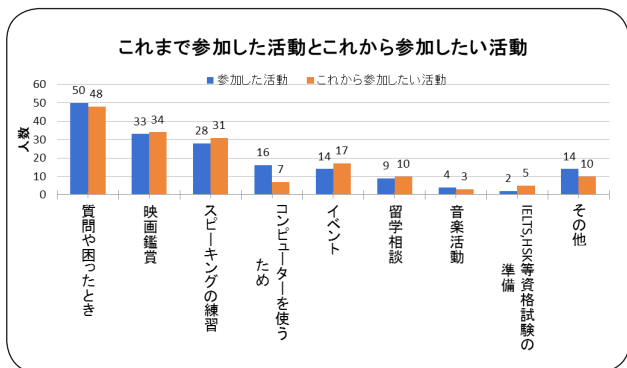


図5：これまで参加した活動とこれから参加したい活動

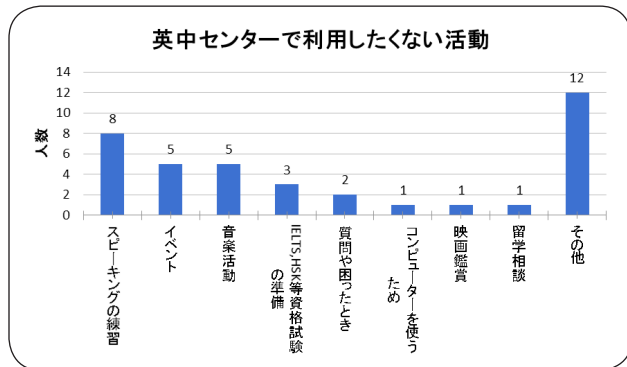


図8：英中センターで利用したくない活動

また、図5に見られるように、使用目的の主となるものは、学習上の質問や困ったことがあったときに利用していることがわかる。さらに、スピーキングの練習など継続的に利用することを目標とする学生も多くいることがわかる。様々な活動の中でも、映画鑑賞は人気があり、映画を観ながら語学学習をすることを好む傾向がある。そのような活動を通して、これまで英中センターを利用した半数以上の学生の語学力が向上したと感じており（図6）、英中センターが言語学習に貢献していることがわかる。

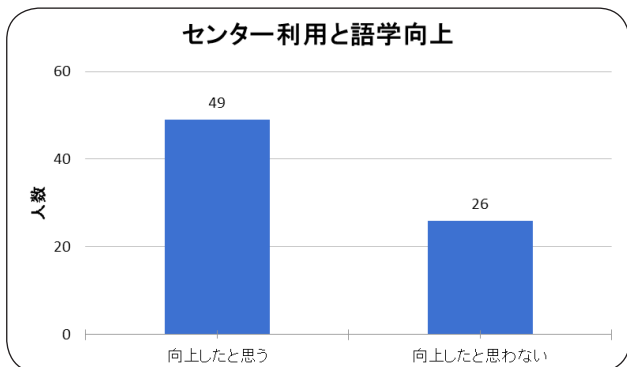


図6：英中センター利用による語学力の向上

次に、今後の改善のために、ネガティブな面に目を向けてみたい。「英中センターを利用していない理由」および「英中センターで利用したくない活動」は、以下の通りである。

図7と図8を見てみると、今まで英中センターを利用したことがある学生が今後利用したくない理由として、その他の具体的な指摘の中に、学生が多すぎるとの意見が多く挙げられた。今後利用したくない活動の1つに、スピーキング活動と指摘する回答が多いのに関係があると思われる。昼休みに会話練習をしようとする多くの学生が集まり、狭い場所で話をするとうるさく聞き取りにくく、話しづらいことも多い。何度か問題を解消するために部屋のレイアウトを変えるなどして対応してきたが、部屋の大きさや椅子、机の数などハード面の問題が残る。

英中センターの存在を知りながら、今まで英中センターを利用できていない理由としては、興味はあるが部屋に入り辛く、語学が苦手であるためと心理的に入りにくいと指摘する回答が目立つ。すでに入りやすい雰囲気づくり、英中センター手前のスペースのCNN&BBCコーナーの設置などの対応はしているが、語学が苦手な学生も入りやすい工夫を今後もしていきたい。

4.3 環境とイベント

英中センターや語学学習に必要な設備についての項目では、多くの学生が映画やDVDを利用していることがわかった（表4、表5）。現在、学生が利用できるDVDはあるものの、英中センターには書籍が少ない。洋書や雑誌などを利用したいという声を反映し（表5）、今後は充実させていきたい。環境整備は、言語学習をする上で重要な要素ではあるものの、アンケートの結果から多くの学生は、言語は実際に運用したり、聞いたりすることで一番身につくと回答している（図9）。アンケートのイベントの質問の中で、今まで参加した活動の中で再度参加したいイベントに、国際コミュニケーションフォーラム、ハロウィンパーティー、ポットラックなどが挙げられた。言

語を運用する機会を増やすイベントや言語学習を促すきっかけとなるような行事が、今後必要であることがわかった。

表4：【環境】現在ある環境や設備で言語学習に良いと思うものは何ですか。

内容	人数
映画	31
先生	19
アルク	8
テレビ	3
本、雑誌など	4

表5：【環境】英中センターにあるとよい設備は何ですか。

設備	人数
PC	3
お菓子、ウォータークーラーなど	3
雑誌、英語漫画、デザインの本など	5
苦手な人のための日	1
音楽が流れている	2

表6：【環境】言語学習をする上で校内にあると良いものはありますか。

学習環境	人数
本	4
DVD	2
音楽	2

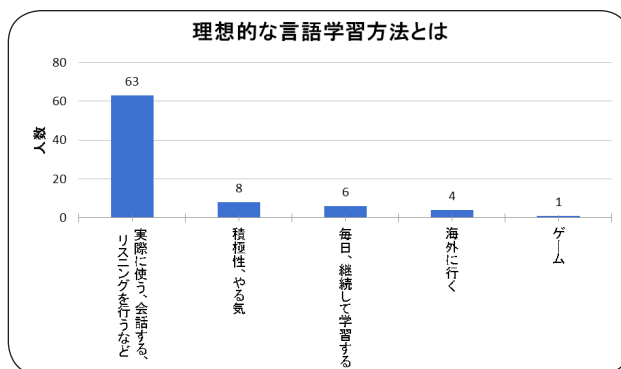


図9：理想的な学習方法とは

5. まとめと今後の展望

3年間を振り返り、英中センターの役割、TOEICから見る成果検証、学生へのアンケート調査結果を報告した。その中で明らかになったことは、TOEICの結果から、英中センターの効果が示されており、特に上位層の伸びは顕著である。しかしながら、芸術文化学科とデザイン学科に関しては、さらに教育効果を上げる必要があり、そのために今後どうすればよいか検討する必要がある。またアンケート結果からは、全般的に好意的なフィードバックを得ることができたが、その反面、英中センターを利用できない理由として「興味があるが、入りにくい」という意見が最も多いことから、入りやすい場所や部屋の雰囲気づくりを今後も検討していく必要がある。また、学生の英語学習に求める設備や備品なども充実させていく必要がある。

さらに、新たに英中センターに与えられた機能として、留学とキャリア支援があるが、今後、学生の視点に立った支援ができるよう検討していく予定である。